

第4回・第5回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果

「議論の要旨」

[ 議論の経過 ]

平成18年 7月 5日(水) 第4回大橋川周辺まちづくり検討委員会  
・作業部会で作成された「大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)(素案)」について討議

平成18年 8月10日(木) 第5回大橋川周辺まちづくり検討委員会  
・第4回委員会での討議結果をもとに作業部会で修正された「大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)(修正案)」について討議

## 第4回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果

### (1) 第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会の結果のまとめについて(発言)

テーマ	委員名	発言要旨
中・下流の河岸	門脇	中流下流に向けては鴨川のような堤防にして、親水護岸を作ってもらいたい。そこには桜や柳を植え、その選定は各地区住民の意見を聞きながら地区計画的に進めていくことによって、住民参加による親水護岸や道路ができるのではないかな。
中州	丸	前回、中流部分を広大な森林公園にと提言したことに対して、行政・河川管理者のコメントが現状の説明であったことは理解できる。しかし、現在ここが市街化調整区域で、農業振興地域と農用地区域にも指定されているにもかかわらず、森林公園をつくることは質的に両立できるものではないか。また、中海・宍道湖淡水化中止に伴う代替水源確保のための施設整備等も行われているが、このことと森林として生まれ変わらせることは両立できるのではないかな。更に、ここは自然と文化の創造軸の中のピオトープエリアとして位置付けられているということも、まさに大きな森林公園を造ることは合致するのではないかな。そしてCO2抑制の観点から見ても広大な森林をつくるということは非常に重要だと考える。

### (2) 大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)の素案について(発言)

テーマ	委員名	発言要旨
全体の進め方及び委員会案の形式	丸	全体の進め方及びこの形式で提案していくことには賛成。
環境検討委員会との関係	木幡	大橋川改修に関する環境検討委員会は、まちづくり検討委員会と並列して存在するものか。また、環境検討委員会はどんな人たちによってどのように進められており、その結果は我々の委員会に情報提供されるのか。環境検討委員会の検討状況が、我々にもわかるようにしてほしい。
景観・環境についての表現	泉	この委員会の意思をより強固にするためにも、景観と環境について「配慮」よりも、もっと強く積極的な表現の方が良いのではないかな。
景観・環境についての表現	泉	現在悪化しているものを食い止めるために、なるべく拘束をかける必要があるのではないかな。
まちづくりのあり方	丸	親水、遊水、敬水と上中下流をキャッチフレーズでまとめ、その背景は、上流は日本の面影、中流は水郷の原風景、下流は風土記の面影との説明だった。現状の風情や魅力を尊重し、基本的な部分を考えていく意味では異論は無いが、現状維持という感じが強く、将来の松江の発展という視点から見ると後ろ向きと思える。基本方針の中に「新たな価値を創出します」という一文があるが、もっと具体的な言葉を盛り込むべきではないかな。
まちづくりのあり方	島田	より創造的なものに転換するという視点は非常に重要だと思う。しかし、「とくに、これまで対立的であった治水と景観・水辺の利活用・環境の関係をより創造的なものに転換します」と記載があるため、これで良いと思った。
まちづくりのあり方	桑子	まちの活性化という視点は非常に重要だと思っている。
まちづくりのあり方	島田	これから新しい価値を創出するという表現が弱いと思う。
まちづくりのあり方	布野	既に景観の立場からもまちづくりについて色々な議論が出ているが、前回の景観専門委員会でのまとめは現状維持的なトーンになった。これは河川改修に伴う護岸や河岸部分のデザイン等について関心が集中してしまい、具体的な設計という次のステップの話になってしまうためである。更に、全体的に改修によるメリットをどこに求め、誰が主体となりどうやってまちづくりにつなげていくのかということが見えないことに原因があるのではないかなと思う。
まちづくりのあり方	桑子	具体的にまちをどうするかという議論をする場合には、かなり詳細な絵を描かないとできないと思う。
基本方針の主体	有光	今後の進め方について、大橋川改修に関する環境検討委員会の検討を踏まえつつ、調整を図りながら事業を進めるとあるが、この「調整を図りながら事業を進める」という文章の主語は行政で良いかな。
基本方針の主体	桑子	この基本方針案は、全体を通じて行政を主語にして書いてある。
基本方針の主体	有光	基本方針の主体がわかりにくい。1枚目の表書きでは委員会が提案し行政・河川管理者が決定するとなっているが、2枚目以降の案の中身については行政・河川管理者が提案するとなっている。結局、誰が提案して誰が決定するのか。

テーマ	委員名	発言要旨
基本方針の主体	岸井	今回のこの基本方針の検討は、従来の行政が素案を出し、それを委員会で直すというやり方ではなく、委員が主体的に提案を作り上げていくという手法で進めている。それに対して、この基本方針は行政が主語となっていて、行政がつくっていく
基本方針の主体	岸井	関係者や市民と協働し、一緒になって河川整備やまちづくりの行政を進めてほしいと我々は言うべきなのではないかと思う。行政にこの方針を決定してくれということは当然だが、それだけでまちづくりはできるものではないと思っているので、そのような方向に修正した方が良くと思う。行政もそういう立場で進めなければ、恐らく行政だけで空回りする結果に終わるのではないかと危惧する。
基本方針の主体	桑子	まちの活性化に特化して言えば、行政がやりましようと言っただけでは活性化はしない。地域の方々が一緒になってまちづくりを考えていくというプロセスが組み込まれていないと無理だと思う。
基本方針の主体	木幡	基本方針の最初の1枚だけこの委員会が主語で、その後は行政が主語だと言われても、行政が主語の文章を我々がまとめることには納得できない。
基本方針の主体	木幡	委員会として行政に代わってこのようなものを作らなくても、委員会がこう思ったことをこうすべきだと言って出せば良いのではないかと思う。
基本方針の主体	布野	作業部会でも同じ議論をしたが、今の話を聞くと同感だ。
基本方針の主体	岸井	主語は「行政は」ではなく、当然行政も含めた「松江市民は」とか、「我々は」ということになると思う。

### (3) 大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)の素案について(付箋記入内容)

テーマ	委員名	付箋記入内容
表書き	有光	提案 - 委員会 決定 - 行政・河川管理者
P1	有光	行政・河川管理者が提案となっているが、提案の主体が分かりにくい。
P1, 4行目	有光	決定するのは誰か。
P1, 1行目	飯野	「治水の歴史をふまえて」というのはどこまでを前提と考えることなのか?(過去のいきさつ)
P3, 上流	飯野	「洪水の大きなリスクをなくすよう」は、「リスクを下げるよう」という意味ですよ。
	飯野	まちづくりを進めるにあたっての優先順位を委員会としてどのように考えるか?
	飯野	今後の進め方において、最下流の米子、境港の人々の意見はどのように反映されるのか。
	泉	現在すでに進行している大橋川周辺まちづくりのあり方が、人工の構造物により損なわれている現状を阻止すること。
	泉	景観に対する視点は、部分的な視点と同時に専門委員の報告にもあるように大景観の視点も極めて重要と考える。
	泉	生態系の問題は、別の委員会の検討結果の情報も知りたい。
	泉	景観・環境に対する「配慮」という表現は弱すぎる。積極的最大の維持と復元する強い意図を明示する。その為には、法的規制を含め、又、市民感情を尊重しながら。
上流の基本方針	木村	「生活空間」では意味が狭すぎないか。まち、にぎわい、交通も含む意味に。
上流の基本方針	木村	「松江に住む…風情や静かなたたずまいのあるまちを創出します」文章の整理が必要
	木村	文章のつながりが不明確。…が、…
中流の基本方針	木村	「環境学習の場としてなど…」文章の整理が必要では?
下流の基本方針	木村	下流域のみにこの文が入る理由の説明が必要では?

テーマ	委員名	発言要旨
上流の基本方針	林	「風情や静かなたたずまい・・・」「現在の風情を大切に・・・」抽象的で具体性に欠けると思いますが、今を再現出来るとは思われません。
	林	立場上、大橋の架け替えをしない事を主張してきた。すべて架け替えありきの話が、他に方法は無いのか？変えて街作りになるのか？
今後の進め方	林	全体の工事期間について ・期間中の観光客の入り込み減少予測はいかに？ ・経済波及の予測は？ ・事業の直接的な影響を受ける人への配慮とは？
	布野	改修によるメリット、インパクトは 経済効果、観光への効果、まちづくりの基本戦力は？ 方針
上流	布野	：大橋～新大橋間の北岸と南岸は一体的な景観とするor北岸：旧、南岸：新という対比的にするか。
上流	布野	：大橋～新大橋間と新大橋～くにびき大橋間を対比的（新旧）としたらどうか。
上流	布野	：宍道湖大橋～大橋北岸をどうするか 断面設計、浸水性、眺望（夕日）、管理用道路
上流	布野	：くにびき大橋～宍道湖大橋間の両岸を歩けるようにする（松江駅からも含め）
上流	布野	： を舟でつなぐ。また堀川遊覧とつなげられないか。また宍道湖遊覧と接続できないか。船着き場のネットワーク。ホーランエンヤの日常化。どういう仕掛けが可能か。
上流	布野	：釣り場の数、位置、多くつくる。そのデザイン、ネットワーク
上流	布野	：視点場のネットワーク。（船着場）（釣場）（視点場）などのネットワークを上手く配置する事が大事ではないか。
	丸	この形式で提案することに賛成です。
	丸	「親水」「遊水」「敬水」の視点で現状の風情・魅力を尊重する基本は賛成です。
	丸	新しい景観の創出、形成、人々のにぎわいに必須の市街地形成、商業活動活発化の視点を加えてほしいです。
	丸	地域で植樹の議論をする。

## 第5回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果

### (1) 平成18年7月豪雨について(発言)

テーマ	委員名	発言要旨
治水計画	林	3点セットのうち、上流の2点ができていれば今回の水害はどの程度の被害であったか。3点セットありきではなく、1点、2点でも検証してもらいたい。
治水計画	飯野	資料の中にももし3点セットができていれば、大橋川からの越水による浸水被害が無かったとあるが、浸水面積や戸数に内水被害が含まれているのはおかしい。
情報提供	飯野	3点セットがあれば全く被害がなかったかのような誤解を受ける表現や情報操作ととれるような発言は避けていただきたい。
治水計画	桑子	大橋川改修の範囲は、天神川からも越水していることから天神川も含めた範囲を考える必要がある。大橋川改修と排水溝からの逆流に関してはどう考えているか。

### (2) 大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)の修正案について(発言)

テーマ	委員名	発言要旨
洪水時の情報管理・危機管理	皆美	洪水が起きてしまった場合、都市機能をストップさせないための情報管理、危機管理のことについてまちづくりに入れるべきだと思うがどうか。
洪水時の情報管理・危機管理	桑子	洪水を抑止することはまちづくりのポイントであるが、起きてしまった場合の交通の問題、避難体制や情報伝達等の危機管理体制もまちづくりの重要なポイントである。
洪水時の情報管理・危機管理	林	47水害の体験を教訓に個人で応急対策を行ったが、その当時と周辺状況が変わっていたために、役に立つどころか逆効果で被害を増す一因となったという話も聞いた。こういった事実をどう生かしていくのかも大変大事である。
洪水時の情報管理・危機管理	大谷	今回の水害では、緊急情報網が新松江市として一元化されていなかったことを痛感した。
洪水時の情報管理・危機管理	桑子	今までは景観などの感性的・感覚的部分と堤防の嵩上げのようなハード的部分について議論してきたが、情報網の整備や避難体制といったソフト的部分の議論が抜けていたように思う。
工事中の影響対策	泉	洪水被害を防ぐための大橋川改修工事を実施することにより、洪水時の一時的な交通の被害以上の、もっと長期にわたる交通問題が起こるし、周辺に住む商売人は経済的な損害を受けることになる。それが心配である。
治水計画	泉	3点セットだけで松江の水害が全て防げるわけではない。それぞれの地域で水害を防ぐことを考えることが必要である。
治水計画	泉	松江の場合は堤防をつくることも必要ではあるが、内水処理を上手にやれば想定以下の中規模な降雨による市内の浸水は防げると思う。3点セットの計画は理解するが、頻繁に起こる可能性のある中規模の水害を防ぐための内水対策を急ぐ必要があると思う。
治水計画	泉	大橋川改修については、拡幅に代わる隧道を作る方法などもあるし、鴨川のような洪水時のみ冠水して流れるだけの川幅を確保する方法もある。また、朝酌川合流点から下流側をもっと広げれば、水の流れが良くなり大橋を架けなくても済むのではないか。
治水計画	桑子	大橋川改修事業費の負担は幾らになるのか、市民はそれを心配しているし、水害が起こった時の風評被害もあるのではないかと。様々な点から経済的な問題を考えておく必要がある。
治水計画	桑子	3点セットに示される大橋川改修(拡幅、堤防嵩上げ、掘削)だけでなく、天神川への水門やポンプの設置についても、水害防止対策として整理しておく必要がある。
橋のあり方	大谷	上流部の4つの橋は、それぞれが機能面で位置付けが違ってくるため、交通体系上あるいはまちづくりの中でどのような位置付けにすると良いかが重要になると思う。ただし、松江大橋は景観上綺麗にするが他の橋は機能だけでよいということではなく、全体的に松江の親水性を生かすようにすることが必要である。

テーマ	委員名	発言要旨
まちづくりのあり方	大谷	中心市街地の活性化について検討している駅前周辺、殿町周辺及びしんじ湖温泉周辺と関連させ、全体のまちづくりの中でエリア毎にどういう位置付けにするのかを考えたほうがよい。
まちづくりのあり方	飯野	浸水被害のあった地域について、人口が減少してきているということもあり、自助・共助の意識が低下しているように感じる。住民サイドでの防災能力が低下していることを考えると、できるだけ中心部に人が住めるようなまちづくりをして、自助、共助、公助を機能させるようなまちにしていくことが重要と思う。
まちづくりのあり方	岸井	大橋川周辺は、現状が良い風景だという人もいるが、その周辺にも大変良い資産があるため今以上に良くすることができると考えている。車と人の関係や、町並みとしての風景、中心市街地の活性化の問題、高齢化の問題、これらの問題を解決する一つのチャンスではないか。
まちづくりのプロセス	岸井	まちづくりを一気に進めてしまうのではなく、少しずつまちが良くなっていくほうが生き生きとしたまちを見せることができると良いと思う。事業費の面も考慮して、戦略的に段階的な目標とともにまちづくりのシナリオが書けるとよい。中流、下流についても強引にやるのではなく、移転する家の人々の生活をどう続けていくかということを考えながら順次やっていくことが必要だと思う。
まちづくりのプロセス	桑子	工事による観光客の減少の心配はあるが、まちづくりのプロセスを観光資源とすることはできないか。
まちづくりのプロセス	岸井	神戸では、まちづくりを一気に進めずに少しずつ変わっていくようにやっている。エリア毎のまちの役割をきちんと設定し、戦略的に時間をかけて本物に近い形でやっていこうとしている。新しいものが常に動いていることがリピーターをつかまえる戦略となる。この事業もそういう考え方をすると、より良いまちづくりに向けた展開ができるのではないか。
橋のあり方	岸井	4つの橋について、同じような機能を持たせた橋として考えていくのかどうか議論になる。例えば松江大橋は周りの風景や城下町の資源を併せ考えるとなるべく人に優しいような橋にして、別の橋で車の交通を担う。橋の機能で考え方を変わると、橋のたもとも違ってくるし、たもとにあるべきものも変わってくる。中心市街地の議論も同様である。
まちづくりのプロセス	桑子	ビジョンを描き、それに向かってどういうステップを踏んで進んでいくかは大事なことである。
治水計画・情報提供	有光	プロセスを踏んでいくためには、まずは市民が正しい情報をしっかりと共有することが必要である。まずは今回の水害のことについて、どこでどういうことが起こったのか、できるだけたくさんの生の情報を市民意見交換会で提供して欲しい。市民が理解したその後どうするかを考えるべきである。
治水計画・情報提供	桑子	市民の方から、「増改築する家は土台を高くするような行政指導があっても良い。」「そういう補助金を出すような制度があっても良い。」という話を聞いた。こういったいろいろな意見を聞き出す機会を工夫してつくっていかなくてはいけない。
治水計画・情報提供	林	鳥取県との協議が進んでいないと聞くと、大橋川を拡張して水を流せば済む問題なのか。今回の洪水で、中海、特に米子周辺にどれほど影響があったかということも情報として流すべきであり、これを知らせずして我々が勝手に広げろ、浅くしろなど言うことが適当かどうかということも重要な問題である。
治水計画	桑子	斐伊川水系全体を視野に入れ、事業でどういう影響が出るかシミュレーションしないといけない。
治水計画・情報提供・意見収集	木幡	今日の委員会では、水害のいろいろな経験や教訓を聞けると思ってきたが、「3点セットが機能していたら水害は免れた」と簡単に結論付けをされたら、それだけでは困るというのが率直な感想である。47水害を全く経験していなかった市民も今回経験した。次回の市民意見交換会ではそういった若い人たちの感想・反応といった市民の方の率直な声を求めていく機会にすべきである。
治水計画・情報提供・意見収集	門脇	水害を受けていない地域の人は、大橋川への関心が非常に薄い。まちづくりは、まち全体に関わることなので、大橋川周辺で洪水被害を受ける人たちだけではなく、水害をほとんど受けない市民に対しても情報提供が必要である。
治水計画	門脇	大橋川の中、下流では天神川の影響が大きく、下流へ水を流せなかったために上流部でも水を流すことができなかったという指摘もある。
治水計画・情報提供・意見収集	桑子	行政や河川管理者は、情報提供についてどういった努力をしているかをまとめ、委員の方々の意見を踏まえて改善してはどうか。

テーマ	委員名	発言要旨
水害の教訓を生かす	井上	災害というのはいつ起こるかかわからないが、頻繁に起こることも想定されるので、今回の教訓を生かすことを早急に考えるべきである。
橋のあり方	林	松江大橋は架け替えるべきではないという意見を当初より持っている。架け替えるということになると、周辺の風情や町並みが全部壊れてしまう。今ある松江大橋と新大橋は、湖畔を含めて是非残すべきである。
橋のあり方	門脇	拡幅せずに今回のまちづくりと水害対策ができれば良いが、水害との関わりを考えると拡幅は必要であり、それに伴って橋の架け替えが必要となる。とすれば、架け替えによって更に良いものをつくり、また、それに併せて売布神社等、和多見周辺については特に松江らしいまちづくりをすべきである。
橋のあり方	林	拡幅ありきではなく、他の方法があるのではないかとということ、鳥取県が了解するかという点について懸念をしている。
橋のあり方	岸井	問題点は、拡幅とかさ上げの2種類があることも認識しておかなければならない。松江大橋は、風情や歴史性など思い入れが随分深い橋だと思うので、今後も地域の中心の橋としてあるべきであると思う。そうした中であっても橋の中身を考え、橋のたもとのつくり方も考えなければならぬと思う。
橋のあり方	岸井	松江大橋の架け替えは、様々な問題点を考慮するとやらざるを得ないのではないかと。今後は「より良い松江大橋をつくる」という考え方に切り替えないといけないと思っている。
橋のあり方	桑子	松江大橋については、現状の橋の風情を最大限生かすということでは皆さん異論はないと思うが、橋を残すかどうかについては議論を深める必要があると思う。基本方針中に、「松江大橋は松江のまちづくりの中心的な役割を果たす」という表現ぐらいは入れてみてはどうか。
工事中の影響対策	大谷	松江の交通の現状を考えると、2つの橋の架け替え期間や仮設橋の検討など、うまく計画を立ててそれを進めることは至難の業と感じている。
まちづくりのプロセス	桑子	韓国では、市長がリーダーシップを発揮してプロジェクト形式で、公共事業をやめて自然を取り戻すことをすごいスピードでやった事例もある。時間をかけすぎると議論が進まないということもあり、ここでもプロジェクトとしてどれだけ戦略的に上手に行うか、そしてその中に住民の合意形成も組みこまなければならないので、かなり大変なことになると思われる。
工事中の影響対策	皆美	橋を架け替える場合、どれくらいの時間とお金がかかるのか。それによって周辺の市町村も、経済的な影響を受けると思う。
まちづくりのあり方	島田	基本方針に「昭和47年7月及び平成18年7月の大水害の教訓を生かし、水害に強い、安全で安心なまちづくりを進める必要がある」と書いてあるが、これが今回の大橋川周辺のまちづくりの基本的な立場であると思う。このまちづくりは、松江市民が安全で安心して住める安心感を与えるようなものでなければならない。
委員会案全体について	島田	この基本方針は、できるだけ多くの市民の皆さんの意見を拝聴し、市民が本当に安心して住めるようなまちになるといった基本的な了解の上で進めていくということが書かれており、よくできていると思う。

### (3) 大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)の修正案について(付箋記入内容)

テーマ	委員名	付箋記入内容
上流	飯野	橋の上が市民の出会いの場(待ち合わせ場)となるような空間が必要。
その他	桑子	市民から聞いた意見 大橋川周辺まちづくり検討委員会の情報が届いていない。(橋北の京橋川と大橋川の間に住んでいる住民)
その他	桑子	市民から聞いた意見 洪水後に、今度洪水になった時の対策が迅速に伝えられていない。対策が議論されているように見えない。
その他	桑子	市民から聞いた意見 洪水のとき土嚢をもってきて欲しいと午前中市役所に連絡したが、来るまでに大変な時間がかかった。

テーマ	委員名	発言要旨
その他	桑子	市民から聞いた意見 47年の水害の経験から改築するとき土台を70センチ高くしたので、今回は浸水を免れた。市は新改築のとき、土台を高くするよう市民に指導すべきではないか。また、土台を高くするときに補助金を出せば水害に強い町になる。
その他	桑子	市民から聞いた意見 洪水をなくすのはいいが、市民の負担がどのくらいになるか教えてほしい。